

浜の活力再生プラン
(第2期)

1 地域水産業再生委員会

組織名	高知地区地域水産業再生委員会幡東部会
代表者名	高知県漁業協同組合幡東ブロック理事 中野 明信

再生委員会の構成員	高知県漁業協同組合、黒潮町、四万十町（興津地区）、有限会社明神丸、有限会社土佐産直出荷組合、株式会社魚彩、高知県中央漁業指導所、高知県土佐清水漁業指導所
オブザーバー	

対象となる地域の範囲 及び漁業の種類	地域：高知県黒潮町、四万十町（興津地区） 対象漁業種類：一本釣り（87）、カツオ竿釣り（31）、小型機船底曳網漁（10）、シイラまき網（9）、もじゃこ漁（12）、磯刺網漁（76）、曳縄漁（90）、曳網漁（7）、延縄漁（13）、イセエビ磯建網漁（12）、潜り漁（13）、定置網漁（2）、ソデイカ漁「1」 ※1（）内は平成29年現在の経営体数 ※2「」内は策定時点で対象となる漁業者数
-----------------------	--

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取りまく現状等

当地区は高知県西部に位置し、春の上りカツオ、秋の戻りカツオを中心に漁獲するカツオ竿釣り漁業をはじめ、“ノドグロ”と称される高級魚、アカムツを漁獲する深海延縄釣り漁業やハモやアカエビをはじめとする小エビ類に加え、かまぼこの原料となる小魚を漁獲する小型機船底曳網漁業が行われている。

しかし、近年、魚価の低迷や資源量の低下、海洋環境の変動、燃油の高騰、漁業者の高齢化により、厳しい漁業経営が続いている。さらに、本地区で行われている漁業においては、それぞれ以下のような課題や問題を抱えている。

【カツオ竿釣り漁業・曳縄漁業】

当地区で最もカツオの水揚げが多い佐賀漁港では、盛漁期に複数のカツオ船が同時に入港した場合、水揚げに係る漁協職員数の不足により水揚げに時間がかかり、漁船の待機時間が長くなることや、佐賀魚市場の休市日の関係で、漁獲が見込める日であってもカツオ船が水揚げできないという問題がある。

また、カツオ一本釣り漁の操業には餌となる生きたカタクチイワシ（以下活餌）が必要で

あるが、当地区周辺には安定して活餌を漁獲できる漁場がないため、買い回し（※1）によって入手した活餌をカツオ船へ販売している。従来、買い回しは漁協が主体となり、県外餌業者から購入した活餌を運搬船を用いて佐賀漁港へ運び、カツオ船へ販売するという方式をとっていた。しかし、活餌購入や運搬船手配にかかる経費が巨額であることから、そのリスクを回避するために、漁協が県外の餌業者に小割と労力を貸与する体制に変わりつつある。佐賀漁港における活餌の蓄養や販売並びに小割整備については、当地区の活餌スタッフによって実施されているが、高齢である現在の活餌スタッフの引退後に、当業務を担う後継者の目途が立っていないのが現状である。

また、活餌販売価格には買い回しの輸送コストが上乘せされるため、特に漁協単独で当該事業を実施する場合、価格は近隣の供給地に比べ割高になることが少なくない。

※1 買い回し：専門業者が県外で活餌を買い付け、海路でカツオ船が入港する漁港へ運搬し、港内小割で蓄養を行いカツオ船へ供給すること。

【小型機船底曳網漁業】

当地区の小型機船底曳網漁業では、ハモ、タイ、小エビ、アンコウが漁獲されるが、鮮度管理の重要性が浸透していないため、漁獲物の品質劣化が恒常化している。これを克服するためには船上で漁獲物を低コストで保冷できる仕組みや長時間曳網による漁獲物の鮮度低下対策について模索する必要がある。

また、佐賀地区では当該漁業者の配偶者が加工グループを結成し、漁獲物の付加価値向上のため干物やフライの製造・販売を行っている。この加工グループは、作成した加工品を道の駅や量販店へ出荷することで更なる漁家所得の向上を目指しているが、事業利益率の低さや低い労働対価が問題となっている。

【深海延縄釣漁業】

入野地区では漁獲されたアカムツを市場から直接県外の東京、石川、愛知の消費地市場へ出荷する共販と呼ばれる販売方式をとっている。当漁港の共販は、漁協が出荷先の情報を集約し、漁業者自ら漁協とともに選別及び荷造り、出荷を行っている。共販という販売方式をとることで、産地市場では仲買人を通さず直接消費地市場へ出荷できるため、出荷先での取引価格がそのまま当該漁業者の収入となり、漁業収入の向上に繋がっている。

現在、入野産アカムツは、鮮度の良さやキズの少なさから消費地市場から一定の評価を受けている。しかし、最終消費者に対する販売促進活動を行っていないため、こうした取組を行っている他産地のアカムツに比べて知名度不足の感がある。漁業者の所得をさらに増加させるためには、末端の消費者にまで“入野産アカムツ”の特性をPRし、認知度の向上を行う必要がある。

【イセエビ磯建網漁業】

高知県沿岸域ではイセエビを対象とした建網漁業が営まれており、幡東地区においても重要な沿岸漁業の一つである。しかし、近年、イセエビをはじめとする磯根資源の減少により、建網漁業の経営は非常に不安定になっており、資源量の増大が喫緊の課題となっている。

【シイラまき網漁業】

四万十町興津地区では、主にシイラまき網漁業が営まれており、四万十町の基幹産業となっている。しかし、平成 26 年度に同地区の興津漁業協同組合が解散したため、同組合所属漁業者は平成 27 年 4 月より高知県漁業協同組合の所属組合員となった。

これに伴い、興津地区漁業者による漁獲物は佐賀漁港に水揚げすることとなったが、以下の問題が残っている。

佐賀漁港では平成 27 年 4 月から興津地区のシイラまき網漁業者によってシイラの水揚げが開始された。平成 27 年から佐賀漁港では市場でのシイラ取り扱いのノウハウや鮮度管理に必要な設備について協議を行ってきたところ、1 隻の水揚げ作業にかかる人役（4 名ほど）が多いわりに水揚げ作業に時間を取られることから、後続のシイラまき網船や他漁業種船の港内待機時間が長くなる場合があるという問題が挙げられた。今後、シイラの水揚げ作業の合理化に向けて協議を行う必要がある。

【ソデイカ漁業】

ソデイカ漁は、平成 30 年 10 月から入野地区の漁業者によって試験的に始められたものの、当地区ではソデイカ漁の方法や保存方法、梱包、出荷についてのノウハウが乏しく、未だ手探りで行っている部分も多い。今後、ソデイカ漁の更なる技術習得や幡東地区での当該漁業の普及を進めていくためにも、ノウハウの蓄積は喫緊の課題となっている。

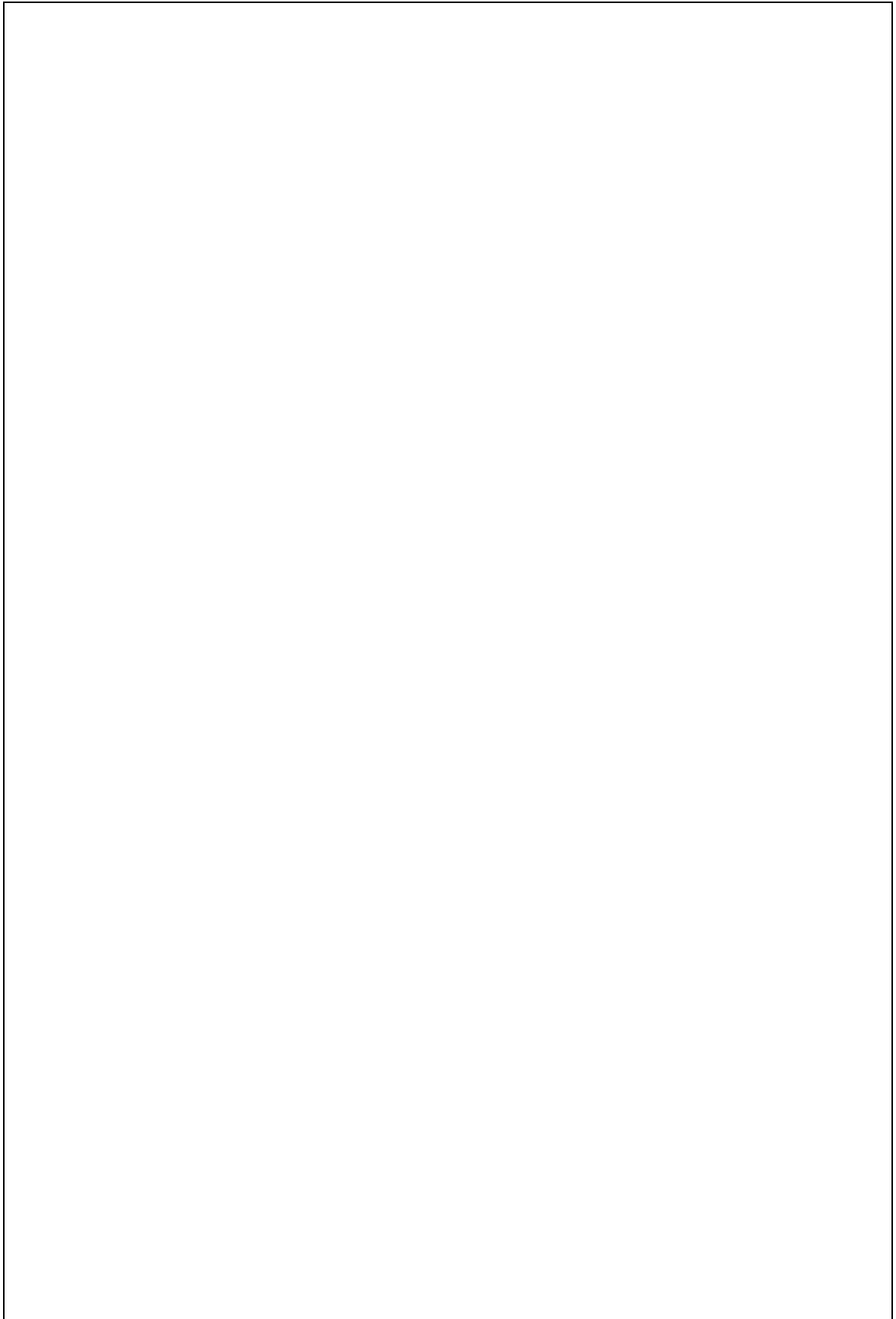
（２）その他の関連する現状等

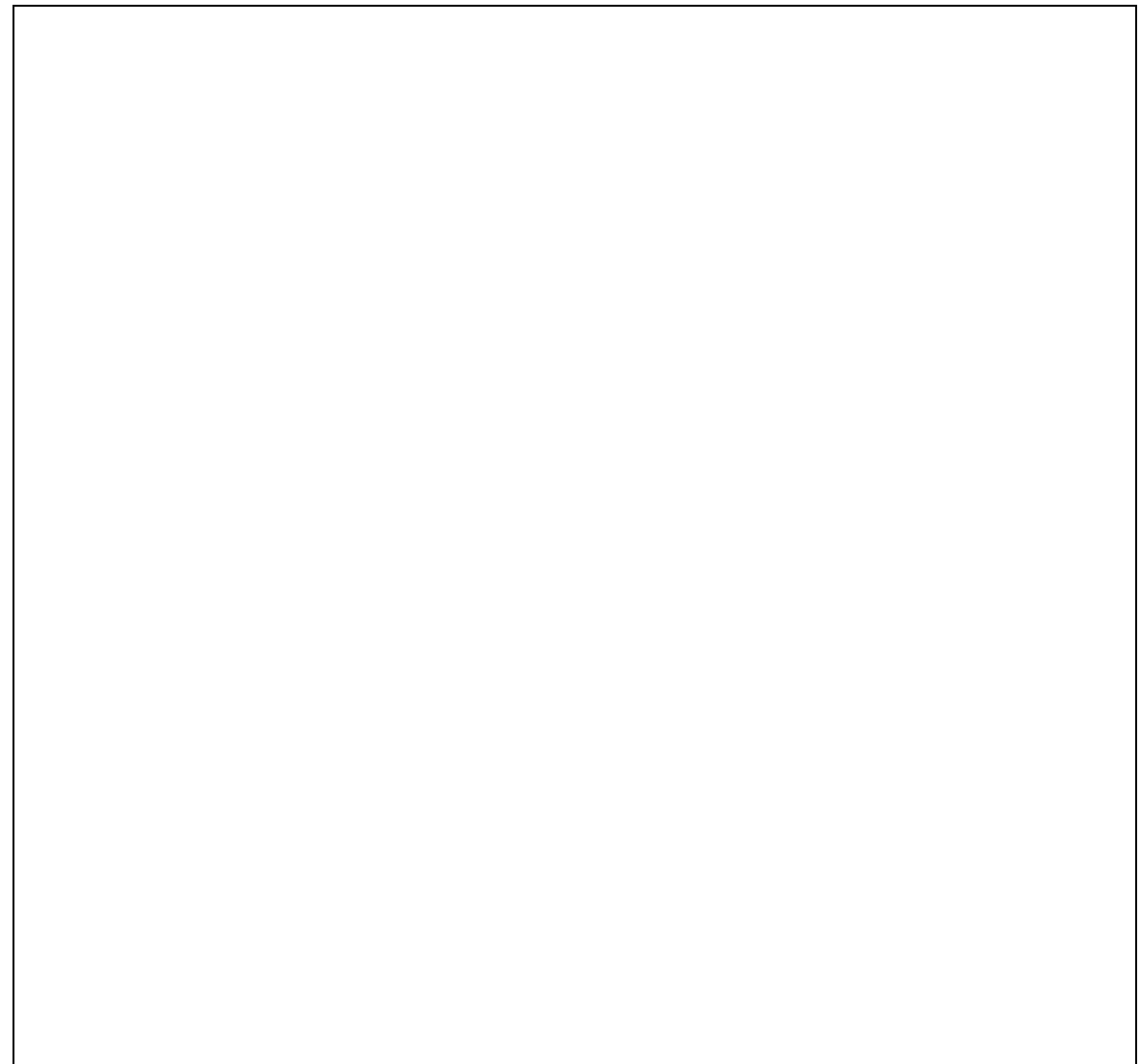
--

３ 活性化の取組方針

（１）前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

--





(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

上記(1)に記した前期取組みを通じて得られた成果や知見等を生かしつつ、次の基本方針を定め、残された課題を解消し、もって生産性の向上とコスト削減策に取り組む。

【カツオ竿釣漁業・曳縄漁業】

佐賀統括支所は、以下の取組みによりカツオ水揚げ港として、漁業者が水揚げや出港しやすい環境を整える。

● カツオ船へのサービス向上

- ・佐賀統括支所は、カツオ水揚げと活餌利用を促進するため、土佐湾周辺で操業しているカツオ船を中心に、漁協 HP や電話連絡により市場水揚げ情報や活餌の販売情報を提供する。
- ・カツオ漁業者は、自らが積極的に水揚げ情報を収集するとともに、漁協から得られた情報

を活用し、より高い単価で水揚げを行えるよう努める。

- ・佐賀統括支所は、水揚げにかかるカツオ船の停泊時間短縮を図り、効率的な操業環境を提供するため、タンク取り方式での水揚げを行う。
- ・ベルトコンベア（注１）を利用した効率的なタンク取りを実践し、短縮された水揚げ時間を操業時間の増大に転換することで水揚げ量の増加を図る。

注１ 佐賀市場整備の一環で、R３年にカツオ船用のタンク取りコンベアが新たに設置される予定である。

● 活餌供給体制の構築

- ・活餌の蓄養及び小割管理技術の承継を目指す。
- ・佐賀統括支所の活餌蓄養施設管理体制の構築を目指す。

【小型機船底びき網漁業】

● 鮮度管理技術の導入

- ・長時間曳網による漁獲物の鮮度低下、漁業者の高齢化、後継者の不足の解決策を、他地域の漁業者への聴き取りや視察を通じて検討する。
- ・船上で漁獲物を施氷し、鮮度管理を行うことで、単価を向上させ、水揚げ金額の増額を図る。

● 漁獲物の付加価値向上

- ・低い収益性やスタッフの高齢化など多くの問題を抱えている土佐佐賀くろしお工房に対して、原価計算などの経営分析手法を用いて事業改善の余地を探る。
- ・事業の終了も視野に入れた今後の方針を決定する。

【深海延縄釣漁業】

● 入野産アカムツの認知度及び魚価の向上。

- ・消費地市場との情報共有を行うため、連絡体制を強化する。
- ・“入野産アカムツ”の知名度を高めるため、魚体への商標タグ取り付けを継続する。
- ・消費地のニーズに合わせたアカムツの処理を行い、“入野産アカムツ”の単価の向上を図る。

● アカムツの資源管理

- ・入野支所と当該漁業者は協議会を立ち上げ、アカムツ資源の維持や増加を目的とした取組について検討を行う。

【イセエビ建網漁業】

● 生息環境の整備によるイセエビ資源の増殖

- ・稚エビ増殖のための木材間伐材を利用して柴漬けを作成、設置を検討する。

● 築磯設置による水揚げの向上

- ・鉄鋼スラグ等を活用した築磯の設置により水揚げ量の向上を図る。

【シイラまき網漁業】

● シイラの鮮度管理

- ・シイラまき網漁業による漁獲物の水揚げには、カツオの水揚げに採用されているタンク取

りを応用して用いることで、滞りなく水揚げを行い鮮度の保持を図る。

- ・漁協職員1名がシイラカゴを計量した後、これを計量機からローラーコンベア（注2）を利用して直接市場場内に運ぶことで、シイラの計量作業（1人役）とフォークリフトでタンクを市場場内に運ぶ作業（1人役）を漁協職員1名で行うことができる。
- ・1名の漁協職員の手が空くことに加え、シイラ水揚げの繁忙時間帯に近隣漁協支所の職員（2人役）を佐賀市場に動員する体制を整えることで、既設のクレーンでの水揚げに加え、R3年に新設されるクレーン（注2）を使ったシイラの水揚げが可能となる。

注2 佐賀市場整備の一環で、R3年にデレッキクレーン1機とローラーコンベア2機が佐賀魚市場岸壁に新設される予定である。

- ・シイラの水揚げをデレッキクレーン2機体制で行うことで、後続のシイラまき網船1隻は、港内で順番待ちをすることなく水揚げを行うことができる。
- ・これらの取り組みにより短縮された水揚げ時間を操業時間の増大に転換することで水揚げ量の増加を図る。

【ソデイカ漁業】

● ソデイカ漁の試験操業

- ・ソデイカ漁の試験操業を実施することで、漁法、保存方法、出荷方法、販売先についての課題を洗い出す。
- ・課題解決に向けて、ソデイカ漁先進県の漁業者を招聘し勉強会を開催したり、現地への視察を実施する。

● ソデイカ漁の普及

- ・試験操業の結果を幡東地区漁業者へ周知し、新たに操業を開始する漁業者を募る。
- ・ソデイカ漁操業隻数増加を目指し、販路拡大を行う上で必要な取扱店のピックアップ及び需要調査を実施する。

【幡東地区全域】

● 高知県漁業就業支援事業の活用

- ・漁業後継者の育成確保、UI ターン者の漁村への受け入れ促進のため、当該地区への就業を希望する者に対して、新規漁業就業者支援事業を活用し長期または短期研修の実施を行う。

（3）漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

カツオ、キハダマグロ

- カツオにかかる資源管理計画に基づき、19t カツオ船は11月から翌年2月までの期間中20日間を自主的に休漁日と定め、遵守している。

（4）具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

1年目（令和2年度）所得 3.0%向上

漁業収入向上 のための取組	【カツオ竿釣漁業・曳縄漁業】 ● カツオ船へのサービス向上 ・高知県漁協佐賀統括支所は、土佐湾周辺で操業しているカツオ船に対し HP にて市場取扱情報を随時提供することで、地域内外の漁船の佐賀漁港への水揚げの促進と活餌の利用の促進を図る。 ・当地域の漁業者は、自ら HP や電話連絡にて積極的にカツオの水揚げ情報等を収集し、得られた情報を活用することで水揚げ場所を選定するなど、より高い単価でのカツオ水揚げを行えるよう努める。 ・高知県漁協佐賀統括支所は、佐賀漁港における水揚げを効率的に行いカツオ船の漁港内停泊時間を短縮するため、タンク取り方式による水揚げを継続して行う。 ● 活餌供給によるカツオ船誘致 ・高知県水産振興部土佐清水漁業指導所は、低コスト化や省力化に努めている小割管理作業に対して、映像記録や聴き取りを通じて作業工程の明文化を図る。 ・高知県水産振興部土佐清水漁業指導所は、活餌蓄養小割の管理に漁協の目が届くよう、小割を構成する各部位の修繕ポイントや修繕スケジュールを明らかにする。 【小型機船底曳網漁業】 ● 鮮度管理技術の導入 ・高知県水産振興部土佐清水漁業指導所は、長時間曳網による漁獲物の鮮度低下、漁業者の高齢化、後継者の不足についての解決策を、他地域の漁業者への聴き取りや視察を通じて検討する。 ・漁業者は、船上で漁獲物を施氷し、鮮度管理を行うことで、単価を向上させ、水揚金額の増額を図る。 ● 漁獲物の付加価値向上 ・高知県水産振興部土佐清水漁業指導所は原価計算を実施し、今後当グループとしてどのような方針を立てて経営していくのかを工房スタッフ全員で検討する。 【深海延縄釣漁業】 ● 入野産アカムツの認知度及び魚価の向上 ・高知県漁業協同組合入野支所は、現在の取引先である東京、静岡、名古屋、石川、神戸の消費地市場や仲買業者から入野産アカムツに対するニーズを聴き取り、必要に応じて取り扱い方法を変更する。 ・高知県漁協入野支所は、入野産アカムツを卸していない飲食店の情報を
------------------	---

	収集したり「高知家の魚 応援の店」制度を利用するなどして、新たな有利販売先を掘り起こす。 ・高知県漁協入野支所職員と深海延縄釣漁業者は、“入野産アカムツ”の知名度を高めるため、魚体への商標タグ取り付けを継続して行う。 【イセエビ建網漁業】 ● 生息環境の整備によるイセエビ資源の増殖、築磯設置による水揚げ量の向上 ・黒潮町は、柴漬け、築磯設置後に行うイセエビ資源量のモニタリング調査における項目とその方法を検討する。 ・高知県漁協佐賀統括支所と漁業者は柴漬け、築磯設置に際して、操業のルールや資源管理方法についての協議を行う。 ・黒潮町は、鉄鋼スラグを活用した築磯を 2,000m³ 沈設し、水揚げ量の増加を図る。 【シイラまき網漁業】 ● シイラの鮮度管理について ・高知県漁協佐賀統括支所は、シイラまき網漁業による漁獲物の水揚げ時、カツオの水揚げに採用されているタンク取りを応用して用いることで、滞りなく水揚げを行い鮮度の保持を図る。 【ソデイカ漁業】 ● ソデイカ漁の試験操業 ・ソデイカ漁業者は、漁法、保存方法、出荷方法、販売先についての課題を洗い出すため、ソデイカ漁の試験操業を実施する。 ● ソデイカ漁の普及 ・高知県漁協入野支所は、販路拡大を行う上で必要なソデイカ取扱店のピックアップ及び需要調査を実施する。 【幡東地区全域】 ● 高知県漁業就業支援事業の活用 ・高知県、黒潮町、高知県漁協は、漁業後継者の育成確保、UI ターン者の漁村への受け入れ促進のため、当該地区への就業を希望する者に対して、高知県漁業就業支援事業を活用し、長期または短期研修を実施する。
漁業コスト削減のための取組	● 燃油費用の削減 ・全漁業者は、定期的な船底清掃と減速航行（出漁時間の前倒し）の励行により燃料使用量の削減を図る。 ● 燃油費高騰への備え ・高知県漁協は、燃油の高騰による漁業経営の圧迫に備えるため、漁業経営セーフティーネット構築支援事業の加入を促進する。

活用する支援措置等	漁業経営セーフティネット構築支援事業 高知県漁業就業支援事業
-----------	-----------------------------------

2年目（令和3年度）所得 12.6%向上

漁業収入向上のための取組	【カツオ竿釣漁業、曳縄漁業】 ● カツオ船へのサービス向上 ・高知県漁協佐賀統括支所は、土佐湾周辺で操業しているカツオ船に対し HP にて市場取扱情報を随時提供することで、地域内外の漁船の水揚げの促進と活餌の利用の促進を図る。 ・当地域の漁業者は、自らも HP や電話連絡にて積極的に水揚げ情報等を収集し、得られた情報を活用することで水揚げ場所を選定する等、より高い単価でのカツオ水揚げを行えるよう努める。 ・高知県漁協佐賀統括支所は、水揚げを効率的に行いカツオ船の停泊時間を短縮するため、タンク取り方式による水揚げを継続して行う。 ・高知県漁協佐賀統括支所は、佐賀市場整備の一環で設置されるベルトコンベアを利用した効率的なタンク取りを実践し、漁業者は、短縮された水揚げ時間を操業時間の増大に転換することで水揚げ量の増加を図る。 ● 活餌供給によるカツオ船誘致 ・高知県水産振興部土佐清水漁業指導所は、低コスト化や省力化に努めている小割管理作業に対して、映像記録や聴き取りを通じて作業工程の明文化を図る。 ・高知県水産振興部土佐清水漁業指導所は、活餌蓄養小割の管理に漁協の目が届くよう、小割を構成する各部位の修繕ポイントや修繕スケジュールを明らかにする。 【小型機船底曳網漁業】 ● 鮮度管理技術の導入 ・高知県水産振興部土佐清水漁業指導所は、長時間曳網による漁獲物の鮮度低下、漁業者の高齢化、後継者の不足についての解決策を、他地域の漁業者への聴き取りや視察を通じて検討する。 ・漁業者は、引き続き船上で漁獲物を施氷し、鮮度管理を行うことで、単価を向上させ、水揚げ金額の増額を図る。 ● 漁獲物の付加価値向上 ・高知県水産振興部土佐清水漁業指導所とくろしお工房スタッフは、前年度の協議結果により、今後の取組を決定する。 【深海延縄式釣漁業】 ● 入野産アカムツの認知度及び魚価の向上
--------------	--

	・高知県漁業協同組合入野支所は、現在の取引先である東京、静岡、名古屋、石川、神戸の消費地市場や仲買業者から入野産アカムツに対するニーズを聴き取り、必要に応じて取り扱い方法を変更する。 ・高知県漁協入野支所は、入野産アカムツを卸していない飲食店の情報を収集したり「高知家の魚 応援の店」制度を利用するなどして、新たな有利販売先を掘り起こす。 ・高知県漁協入野支所と深海延縄釣漁業者は、“入野産アカムツ”の知名度を高めるため、魚体への商標タグ取り付けを継続して行う。 【イセエビ磯建網漁業】 ● 生息環境の整備によるイセエビ資源の増殖 ・黒潮町と高知県漁協佐賀統括支所は、柴漬けの設置方法や管理手法について検討する。 ● 築磯設置による水揚げ量の向上 ・黒潮町は、引き続き地元漁業者に向けて築磯の概要や効果についての説明会を行う。 ・黒潮町は、鉄鋼スラグを活用した築磯をさらに 2,000m³ 沈設し、水揚げ量の増加を図る。 【シイラまき網漁業】 ● シイラの鮮度管理について ・高知県漁協佐賀統括支所は、シイラまき網漁業による漁獲物の水揚げ時、カツオの水揚げに採用されているタンク取りを応用して用いることで、滞りなく水揚げを行い鮮度の保持を図る ・漁協職員1名がシイラカゴを計量した後、これを計量機からローラーコンベア（注2）を利用して直接市場場内に運ぶことで、シイラの計量作業（1人役）とフォークリフトでタンクを市場場内に運ぶ作業（1人役）を漁協職員1名で行うことができる。 ・1名の漁協職員の手が空くことに加え、シイラ水揚げの繁忙時間帯に近隣漁協支所の職員（2人役）を佐賀市場に動員する体制を整えることで、既設のクレーンでの水揚げに加え、R3年に新設されるクレーン（注2）を使ったシイラの水揚げが可能となる。 注2 佐賀市場整備の一環で、R3年にデレッキクレーン1機とローラーコンベア2機が佐賀魚市場岸壁に新設される予定である ・シイラの水揚げをデレッキクレーン2機体制で行うことで、後続のシイラまき網船1隻は、港内で順番待ちをすることなく水揚げを行うことができる。 ・漁業者は、これらの取り組みにより短縮された水揚げ時間を操業時間の
--	--

	増大に転換することで水揚量の増加を図る。 【ソデイカ漁業】 ● ソデイカ漁の試験操業 ・ ソデイカ漁業者は、継続してソデイカ漁の試験操業を実施する。 ・ 高知県漁協入野支所と当該漁業者は、当該漁業のさらなる技術習得のために行う勉強会や視察の内容や時期を協議し、講師や視察を行う地域を選定する。 ・ 高知県漁協入野支所と漁業者は、ソデイカの水揚げ時から出荷までの管理体制（入野支所でのソデイカ保管可能量や出荷時の梱包）についての協議を仲買人や行政を交えて行う。 ● ソデイカ漁の普及 ・ 高知県漁協入野支所は、販路拡大を行う上で必要なソデイカ取扱店のピックアップ及び需要調査を継続して実施する。 【幡東地区全域】 ● 高知県漁業就業支援事業の活用 ・ 高知県、黒潮町、高知県漁協は、漁業後継者の育成確保、UI ターン者の漁村への受け入れ促進のため、当該地区への就業を希望する者に対して、高知県漁業就業支援事業を活用し、長期または短期研修を実施する。
漁業コスト削減のための取組	● 燃油費用の削減 ・ 全漁業者は、定期的な船底清掃と減速航行（出漁時間の前倒し）の励行により燃料使用量の削減を図る。 ● 燃油費高騰への備え ・ 高知県漁協は、燃油の高騰による漁業経営の圧迫に備えるため、漁業経営セーフティーネット構築支援事業の加入を促進する。
活用する支援措置等	漁業経営セーフティーネット構築支援事業 高知県漁業就業支援事業

3年目（令和4年度）所得 14.7%向上

漁業収入向上のための取組	【カツオ竿釣漁業・曳縄漁】 ● カツオ船へのサービス向上 ・ 高知県漁協佐賀統括支所は、土佐湾周辺で操業しているカツオ船に対し HP や電話連絡にて市場取扱情報を随時提供することで、地域内外の漁船の水揚げの促進と活餌の利用の促進を図る。 ・ 当地域の漁業者は、自らも電話連絡等にて積極的に水揚げ情報等を収集し、得られた情報を活用することで水揚げ場所を選定する等、より高い単価でのカツオ水揚げを行えるよう努める。
--------------	---

	・高知県漁協佐賀統括支所は、水揚げを効率的に行いカツオ船の漁港内停泊時間を短縮するため、タンク取り方式による水揚げを継続して行う。 ・高知県漁協佐賀統括支所は、佐賀市場整備の一環で設置されるベルトコンベアを利用した効率的なタンク取りを実践し、漁業者は、短縮された水揚げ時間を操業時間の増大に転換することで水揚げ量の増加を図る。 ● 活餌供給によるカツオ船誘致 ・黒潮町、高知県漁協佐賀統括支所、佐賀活餌買い回し事業スタッフは、令和2年、3年に作成した作業工程マニュアルについての課題や問題点を抽出し、随時更新する。 ・高知県漁協佐賀統括支所は、令和2年、3年に明らかになった修繕スケジュールを基に、漁協は活餌事業の進捗管理を実施するとともに、当該事業が低コストや省力化に努めているかを監視する。 【小型機船底曳網漁業】 ● 鮮度管理技術の導入 ・高知県水産振興部土佐清水漁業指導所は、令和2年、3年に検討した、当該漁業が抱える課題に対する解決策を試験的に導入し、その効果について検証する。 ・漁業者は、引き続き、船上で漁獲物を施氷し、鮮度管理を行うことで、単価を向上させ、水揚げ金額の増額を図る。 【深海延縄式釣漁業】 ● 入野産アカムツの認知度及び魚価の向上 ・高知県漁協入野支所は、現在の取引先である東京、静岡、名古屋、石川、神戸の消費地市場や仲買業者から入野産アカムツに対するニーズを聴き取り、必要に応じて取り扱い方法を変更する。 ・高知県漁協入野支所は、入野産アカムツを卸していない飲食店の情報を収集したり「高知家の魚 応援の店」制度を利用するなどして、新たな有利販売先を掘り起こす。 ・高知県漁協入野支所と深海延縄釣漁業者は、“入野産アカムツ”の知名度を高めるため、魚体への商標タグ取り付けを継続して行う。 【イセエビ建網漁業】 ● 生息環境の整備によるイセエビ資源の増殖 ・黒潮町と高知県漁協佐賀統括支所は、柴漬けの設置場所や管理方法について協議を行う。 ・黒潮町は、柴漬けの設置後に行うイセエビ資源量のモニタリング調査における項目とその方法を検討する。 ● 築磯設置による水揚げ量の向上
--	--

	・黒潮町は、築磯設置効果の検証及びモニタリング調査を実施する。 【シイラまき網漁業】 ● シイラの鮮度管理について ・高知県漁協佐賀統括支所は、シイラまき網漁業による漁獲物の水揚げ時、カツオの水揚げに採用されているタンク取りを応用して用いることで、滞りなく水揚げを行い鮮度の保持を図る。 ・シイラの水揚げをデレッキクレーン２機体制で行うことで、後続のシイラまき網船は、港内で順番待ちをすることなく水揚げを行うことができる。 ・漁業者は、これらの取り組みにより短縮された水揚げ時間を操業時間の増大に転換することで水揚量の増加を図る。 【ソデイカ漁業】 ● ソデイカ漁の試験操業 ・ソデイカ漁業者は、継続してソデイカ漁の試験操業を実施する。 ・黒潮町は、令和２年～令和４年に行った試験操業の結果をまとめ、当地区の漁業者にも普及が可能になるよう詳細に分析し、漁法、保存方法、出荷方法についての課題を列举する。 ・黒潮町、高知県漁協入野支所、ソデイカ漁業者は、当該漁業の更なる技術習得のための勉強会及び視察を実施する。 ● ソデイカ漁の普及 ・高知県漁協入野支所は、販路拡大を目指し、引き続きソデイカ取扱店のピックアップ及び需要調査を継続して実施する。 【幡東地区全域】 ● 高知県漁業就業支援事業の活用 ・高知県、黒潮町、高知県漁協は、漁業後継者の育成確保、UI ターン者の漁村への受け入れ促進のため、当該地区への就業を希望する者に対して、高知県漁業就業支援事業を活用し、長期または短期研修を実施する。
漁業コスト削減のための取組	● 燃油費用の削減 ・全漁業者は、定期的な船底清掃と減速航行（出漁時間の前倒し）の励行により燃料使用量の削減を図る。 ● 燃油費高騰への備え ・高知県漁協は、燃油の高騰による漁業経営の圧迫に備えるため、漁業経営セーフティーネット構築支援事業の加入を促進する。
活用する支援措置等	漁業経営セーフティーネット構築支援事業 高知県漁業就業支援事業

4年目（令和5年度）所得 15.3%向上

漁業収入向上 のための取組	【カツオ竿釣漁業・曳縄漁業】 ● カツオ船へのサービス向上 ・高知県漁協佐賀統括支所は、土佐湾で操業しているカツオ船に対してHPを活用して、市場取扱情報の提供を行う。 ・当地域の漁業者は、自らも電話連絡にて積極的に水揚げ情報等を収集し、得られた情報を活用することで水揚げ場所を選定する等、より高い単価でのカツオ水揚げを行えるよう努める。 ・高知県漁協佐賀統括支所は、水揚げを効率的に行いカツオ船の停泊時間を短縮するため、継続してベルトコンベアを利用したタンク取り方式による水揚げを行い、漁業者は、短縮された水揚げ時間を操業時間の増大に転換することで水揚げ量の増加を図る。 ● 活餌供給によるカツオ船誘致 ・高知県水産振興部土佐清水漁業指導所、黒潮町、高知県漁協佐賀統括支所、佐賀活餌買い回し事業スタッフは、令和2年、3年に作成した作業工程マニュアルについての課題や問題点を抽出し、随時更新する。 ・高知県漁協佐賀統括支所は、活餌事業の進捗管理に必要な事項が新たに発生した場合、速やかにその対応策をとる。 【小型機船底曳網漁業】 ● 鮮度管理技術の導入 ・高知県水産振興部土佐清水漁業指導所は、令和2年、3年に検討した、当該漁業が抱える課題に対する解決策を試験的に導入し、その効果について検証する。 ・漁業者は、引き続き、船上で漁獲物を施氷し、鮮度管理を行うことで、単価を向上させ、水揚げ金額の増額を図る。 【深海延縄式釣漁業】 ● 入野産アカムツの認知度及び魚価の向上 ・高知県漁協入野支所は、現在の取引先である東京、静岡、名古屋、石川、神戸の消費地市場や仲買業者から入野産アカムツに対するニーズを聴き取り、必要に応じて取り扱い方法や処理方法を変更することで、アカムツの単価向上を図る。 ・高知県漁協入野支所は、特定した有利販売先からのニーズを深掘りし、必要に応じてアカムツの取り扱い方法や処理方法を見直すことで、アカムツの単価向上を図る。 ・高知県漁協入野支所は、“入野産アカムツ”の知名度を高めるため、魚体への商標タグ取り付けを継続して行う。
------------------	--

	【イセエビ建網漁業】 ● 生息環境の整備によるイセエビ資源の増殖 ・黒潮町は、柴漬けの設置による漁場整備を行い、効果の検証及びモニタリング調査を実施する。 ● 築磯設置による水揚げ量の向上 ・黒潮町は、築磯効果の検証及びモニタリング調査を実施する。 【シイラまき網漁業】 ● シイラの鮮度管理について ・高知県漁協佐賀統括支所は、シイラまき網漁業による漁獲物の水揚げ時、カツオの水揚げに採用されているタンク取りを応用して用いることで、滞りなく水揚げを行い鮮度の保持を図る。 ・シイラの水揚げをデレッキクレーン2機体制で行うことで、後続のシイラまき網船は、港内で順番待ちをすることなく水揚げを行うことができる。 ・漁業者は、これらの取り組みにより短縮された水揚げ時間を操業時間の増大に転換することで水揚量の増加を図る。 【ソデイカ漁業】 ● ソデイカ漁の試験操業 ・ソデイカ漁業者は、継続してソデイカ漁の試験操業を実施する。 ・入野支所と当該漁業者は前年度に列挙された課題について改善策を検討し、暫時試験操業に取り入れる。 ● ソデイカ漁の普及 ・黒潮町は、当地区の漁業者へソデイカ漁を普及させるため、前年度に行った試験操業結果のまとめを元に、当該漁業におけるマニュアルを作成する。 【幡東地区全域】 ● 高知県漁業就業支援事業の活用 ・高知県、黒潮町、高知県漁協は、漁業後継者の育成確保、UI ターン者の漁村への受け入れ促進のため、当該地区への就業を希望する者に対して、高知県漁業就業支援事業を活用し、長期または短期研修を実施する。
漁業コスト削減のための取組	● 燃油費用の削減 ・全漁業者は、定期的な船底清掃と減速航行（出漁時間の前倒し）の励行により燃料使用量の削減を図る。 ● 燃油費高騰への備え ・高知県漁協は、燃油の高騰による漁業経営の圧迫に備えるため、漁業経営セーフティーネット構築支援事業の加入を促進する。

活用する支援措置等	漁業経営セーフティネット構築支援事業 高知県漁業就業支援事業
-----------	-----------------------------------

5年目（令和6年度）所得 17.6%向上

漁業収入向上のための取組	【カツオ竿釣漁業・曳縄漁業】 ● カツオ船へのサービス向上 ・高知県漁協佐賀統括支所は、土佐湾で操業しているカツオ船に対してHPを活用して市場取扱情報の提供を行う。 ・当地域の漁業者は、自らも電話連絡にて積極的に水揚げ情報等を収集し、得られた情報を活用することで水揚げ場所を選定する等、より高い単価でのカツオ水揚げを行えるよう努める。 ・高知県漁協佐賀統括支所は、水揚げを効率的に行いカツオ船の停泊時間を短縮するため、継続してベルトコンベアを利用したタンク取り方式による水揚げを行い、漁業者は、短縮された水揚げ時間を操業時間の増大に転換することで水揚げ量の増加を図る。 ● 活餌供給によるカツオ船誘致 ・高知県水産振興部土佐清水漁業指導所、黒潮町、高知県漁協佐賀統括支所、佐賀活餌買い回し事業スタッフは、令和2年、3年に作成した作業工程マニュアルについての課題や問題点を抽出し、随時更新する。 ・高知県漁協佐賀統括支所は、活餌事業の進捗管理に必要な事項が新たに発生した場合、速やかにその対応策をとる。 【小型機船底曳網漁業】 ● 鮮度管理技術の導入 ・高知県水産振興部土佐清水漁業指導所は、試験導入した課題解決策の効果検証結果をとりまとめ、当該漁業者へその有効性を説明する。 ・漁業者は、引き続き、船上で漁獲物を施氷し、鮮度管理を行うことで、単価を向上させ、水揚げ金額の増額を図る。 【深海延縄釣漁業】 ● 入野産アカムツの認知度及び魚価の向上 ・高知県漁協入野支所は、現在の取引先である東京、静岡、名古屋、石川、神戸の消費地市場や仲買業者から入野産アカムツに対するニーズを聴き取り、必要に応じて取り扱い方法を変更することで、アカムツの単価向上を図る。 ・高知県漁協入野支所は、特定した有利販売先からのニーズを深掘りし、必要に応じてアカムツの取り扱い方法を見直すことで、アカムツの単価向上を図る。
--------------	--

	・高知県漁協入野支所と深海延縄釣漁業者は、“入野産アカムツ”の知名度を高めるため、魚体への商標タグ取り付けを継続して行う。 【イセエビ建網漁業】 ● 生息環境の整備によるイセエビ資源の増殖 ・黒潮町は、モニタリング調査を継続して行う。 ・黒潮町は、前年度に行った漁場整備の効果検証結果について地元漁業者に説明を実施し、来年度以降も漁場整備を実施するか協議を行う。 ● 築磯設置による水揚げの向上 ・黒潮町は、前年度に行ったイセエビの資源量調査結果を地元漁業者へ説明し、築磯の持続的な利用を目的として管理指針を定める。 【シイラまき網漁業】 ● シイラの鮮度管理について ・高知県漁協佐賀統括支所は、シイラまき網漁業による漁獲物の水揚げ時、カツオの水揚げに採用されているタンク取りを応用して用いることで、滞りなく水揚げを行い鮮度の保持を図る。 ・シイラの水揚げをデレッキクレーン2機体制で行うことで、後続のシイラまき網船は、港内で順番待ちをすることなく水揚げを行うことができる。 ・漁業者は、これらの取り組みにより短縮された水揚げ時間を操業時間の増大に転換することで水揚量の増加を図る。 【ソデイカ漁業】 ● ソデイカ漁の試験操業 ・ソデイカ漁業者は、継続してソデイカ漁の試験操業を実施する。 ● ソデイカ漁の普及 ・当該漁業者は前年度作成したマニュアルと試験操業の経験を元に、当地区の他漁業者に向けて勉強会を開催し、当該漁業の横展開を図る。 【幡東地区全域】 ● 高知県漁業就業支援事業の活用 ・高知県、黒潮町、高知県漁協は、漁業後継者の育成確保、UI ターン者の漁村への受け入れ促進のため、当該地区への就業を希望する者に対して、高知県漁業就業支援事業を活用し長期または短期研修を実施する。
漁業コスト削減のための取組	● 燃油費用の削減 ・全漁業者は、定期的な船底清掃と減速航行（出漁時間の前倒し）の励行により燃料使用量の削減を図る。 ● 燃油費高騰への備え ・高知県漁協は、燃油の高騰による漁業経営の圧迫に備えるため、漁業経

	営セーフティーネット構築支援事業の加入を促進する。
活用する支援 措置等	漁業経営セーフティーネット構築支援事業 高知県漁業就業支援事業

(5) 関係機関との連携

--

4 目標

(1) 所得目標

漁業所得の向上 10.0%以上 向上	基準年	円
	目標年	円

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

(3) 所得目標以外の成果目標

・カツオ水揚量の向上	基準年	H26～H30 年度の 5 中 3 平均： 157 トン
	目標年	令和 6 年度： 188 トン
・イセエビ水揚量の向上	基準年	H26～H30 年度の 5 中 3 平均： 11.7 トン
	目標年	令和 6 年度： 12.7 トン
・ソデイカ漁の操業経営体 数の増加	基準年	令和 2 年 1 経営体（試験操業）
	目標年	令和 6 年 5 経営体

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

別紙参照のこと

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
漁業経営セーフティーネット構築支援事業	燃油価格高騰時に国と漁業者の積み立てから補填金が交付されることで、漁業経営の安定化を図る
高知県漁業就業支援事業	新規漁業就業希望者の受け入れにより漁業後継者の確保と地域の活性化を図る

※関連事業は、活用を予定している国（水産庁以外を含む）、地方公共団体等の補助金・基金等をであって、本欄への記載をもって、事業の活用を確約するものではない。